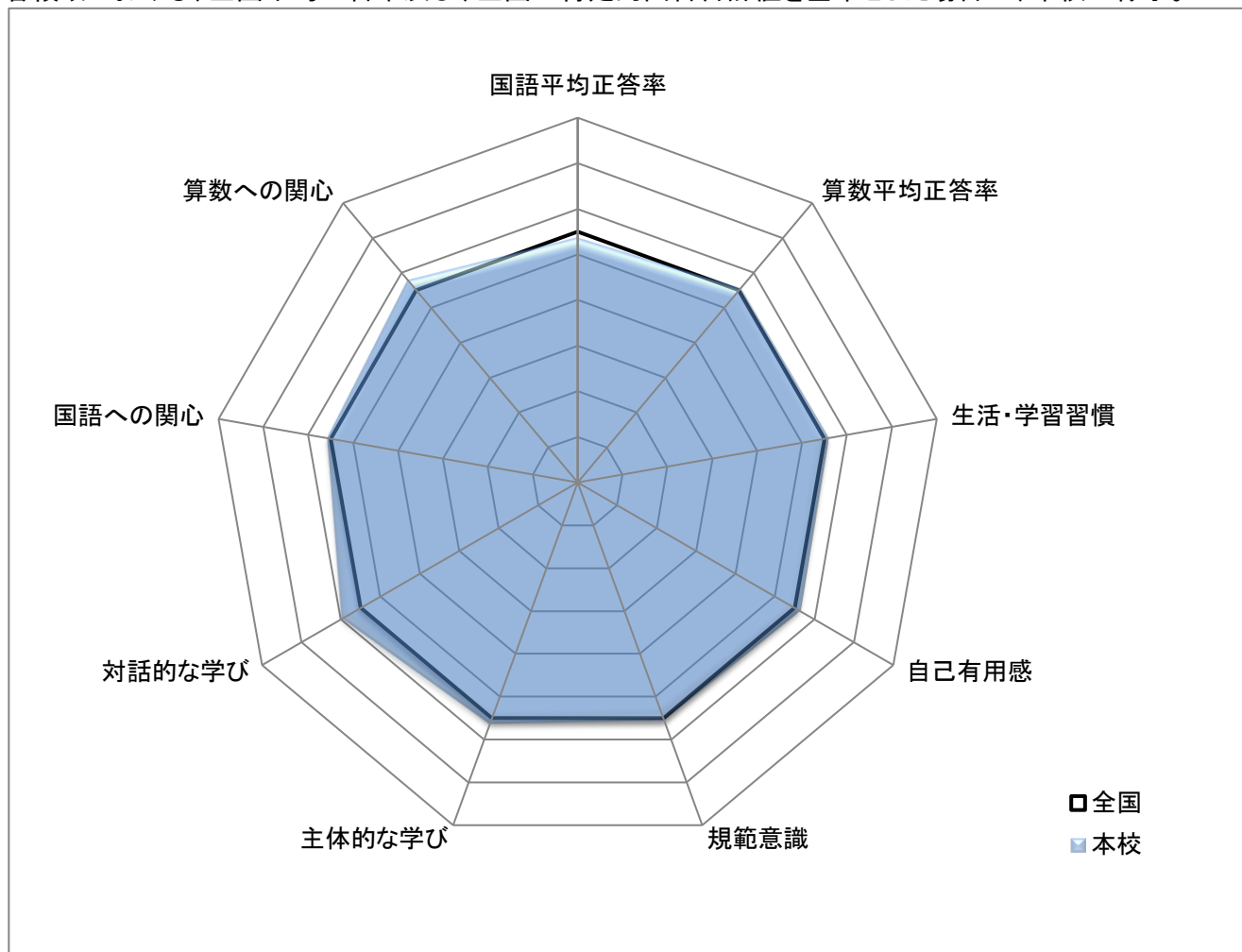


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

本校は、ここ数年、平均正答率が全国平均より低い状況であったが、年々上昇傾向が続いている。今年度の調査では、国語がわずかに全国平均を下回ったが、算数及び、教科への関心や学びの質は、全国平均を上回った。算数においては、習熟度別少人数指導を計画的に実施し、「できた。分かった。」が実感できる授業を行うことができている。また、生活・学習習慣が身に付いている児童が増え、学習規律が確立し、全体的に落ち着いた雰囲気の中で、学習に取り組んでいる状況である。

《授業改善のポイント》

児童は、国語、算数ともに教科への関心が高く、意欲的に学習に取り組んでいる。児童の学習意欲を継続させるために、児童が興味・関心をもち、一人一人が課題を見付け、解決できる授業を引き続き行っていく。また、ここ数年での「主体的で対話的な深い学び」を重点にした授業改善で、授業構成は主体的で対話的な内容へとシフトし、「学び合い」や「話し合い」、「表現」活動の充実が図られている。今後も、児童が興味関心をもち、課題解決のために、「調べ」「学び合い」「話し合い」「表現」できる学習になるように、さらなる授業改善を行っていく。

《チャートの特徴》

全国平均と本校の調査結果を比較し、すべての領域において大変バランスのよいチャートの形状を示している。学習面では、国語の平均正答率がわずかに全国平均を下回っているが、算数の正答率及び教科への関心は高い。「主体的な学び」と「対話的な学び」については上回っており、主体的に課題解決を図る学習への授業改善が成果を表している。生活・学習習慣では、就寝・起床時刻や携帯電話、コンピュータ等の使用約束を守る児童の割合が高く、全国平均と比較すると、生活・学習習慣が身に付いている児童が多いことが分かった。豊かな心の育成面では、将来に向けた目標をもち、最後までやり遂げようとする児童が多く、いじめを許さないなどの規範意識も全国平均を上回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭への働きかけとしては、家庭学習を自主的・継続的に行えるように、連絡帳、学年だより等で、宿題や学習内容等の情報を共有しながら進めている。PTA・地域の方々へは、学校公開・学校行事への参加を通して、本校の教育活動への理解を図り、協働して教育活動を行う。